

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	しあわせ駅 松本		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 20日	～	令和8年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 20日	～	令和8年 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の活動内容や体調等によって、室内の場所の使い分けが出来ている。 (学習室・ままごと遊びの出来る畳間・運動もできる板間のリビング・午睡の出来る個室・キッチンの食育・調理スペース等)	児童が安心して過ごせるように、活動内容によりままごと遊びのスペースを仕切ったり、開閉可能なカーテンを付けて、午睡や着替えなど、児童のプライバシーの保護にも務めている。	今後は、年齢差に応じて、遊びのスペースを確保できるよう、ジョイントマットなども追加購入して、うまく仕切りながら、居心地の良いスペースの確保・維持に努めていきたい。
2	事業所内の物の配置や保管方法が安全に考慮されている。 (おもちゃ・学習用品)	児童の口に入る大きさのおもちゃは、児童の手が届かない高い場所や事務所保管にて職員が管理していることを職員間で共有・徹底している。キャビネット等には鍵をかけて安全保管を確保している。 また、児童が危険なものの認知が出来るように、絵カード等で視覚化し、自分で判断できるように工夫している。	今後は、安全管理マニュアルを実施しながら、さらに職員間で情報共有を徹底していきたい。
3	児童や職員の体調管理をマニュアル化して行っている。	特に発語のない児童や、自分の体調を説明することが難しい児童に対しては、来所時に体調等を把握できるよう、検温や複数の職員での表情観察を行い、保護者からの申し送りを職員間で共有している。 また、てんかん発作時や痙攣時の緊急対応を、職員間で共有し、体調変化が急激な場合には迅速に対応できるよう、普段から意識して、情報共有し、安全支援を心掛けて行っている。	今後は、さらに症例研究などの勉強会を行い、緊急時に落ち着いて対応できるよう、職員間での安全支援の声の掛け合いも推進していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マンツーマン対応が必要な児童が多く、人員確保が重要。 男性職員も入職したが、絶対数的にはまだ少し足りないと感じている。	異食の児童も在籍しているため、常にマンツーマン対応が必要な児童が複数名いる。	今後は、マンツーマン対応が必要な児童が利用するときには、できるだけ職員を配置できるように、さらにシフト調整がうまく確保できるように、活動内容のさらなる見直しも含めて、職員間で検討していきたい。 また、本社のさらなる協力も得たいと思っている。
2	保護者に対して、活動や事業所での様子が伝わっていない時がある。	特別なイベント(避難訓練等)や、個別レッスン等の活動の発信が不十分で、保護者の認知度が低かった。	
3	地域交流(児童の住んでいる地域)との交流がまだできていない。	児童の居住地域が多岐にわたるため、どのようにそれらの地域と連携していけば良いのか分からなかった。	相談員さんや職員の人脈を活かし、少しずつ活動の幅を広げている。

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	しあわせ駅 松本		公表日		令和 8 年 3 月 30 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		学習室の机を配置、ジョイコンマットの活用等工夫して、安全に過ごせるように配慮している。また、「スペース」の工夫を行い、子ども達が自由に遊べる空間を作っている。	活動内容が異なる場合も多いので、野外の活動をもっと増やし、調整していきたいと思っている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		職員の配置基準を満たし、かつ、児童指導員数も常に確保できている。	一方で、職員の急な休みの際にも、対応しやすい人数の確保が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		机や本棚の配置を工夫し、視覚優位で写真やイラストを使い、子ども達に分かりやすく案内している。フロア全体は、ほとんど段差がない。トイレ・洗面所の小さい段差には、スロープ等のバリアフリー化がなされているが、あえて一部残した段差（例：玄関上がり框の大きな段差）については、社会生活において「段差の乗り越え方」の意識づけを行うという目的をもって、そのままにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		空気清浄機を設置し、空調管理を行っている。また、毎日支援終了後、清掃を行い、生活空間の清潔保持に努め、子供たちが心地よく楽しく活動出来る安全な空間を確保している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		男女の着替えや児童児童のお昼寝時の他、情緒安定が必要な時など、小さい部屋や事務室の一部を使用して、必要時に対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		業務改善のための職員ミーティングを随時行い、情報共有や振り返りを行っている。	今後さらに「明確な目標設定」を行い、振り返りを強化していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者の意見を積極的に取り入れ、保護者の意向をしっかりと把握するよう務めている。	今後さらに職員間でミーティングを行いながら、業務改善出来るよう、務めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		職員全体ミーティングを定期的に行い、職員の意見等を聞く機会を設け、業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		今後、導入を検討中。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		本社にて適宜、全員参加または希望参加、指名参加等で研修を行っている。また、本社主導により、テーマを決めて各事業所においても全職員参加の研修を実施している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		個人ごとに、児発管を中心にミーティングを行い、支援プログラムの内容を検討後、(保護者に)公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		担当者がアセスメントを行った後、職員全員でミーティング等を行い、原案作成・内容確認を行って「放課後等デイサービス計画」を策定している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		児発管主導で原案作成後、支援員全員でミーティングを行い、内容検討・確認を実施している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		支援の前に、必要な個人ごとの計画に沿った支援内容を、口頭またはメモ等で随時共有し、また、個人ごとの活動記録を作成する際には、必ず「個別支援計画書」の内容を確認することを全支援員に周知徹底している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		個人々に合わせたアセスメントツールを用いて、当日の行動観察等を記録し、職員間で共有を徹底している。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		児発管主導で原案作成後、支援員全員でミーティングを行い、「本人支援」・「家族支援」・「移行支援」・「地域支援」等の具体的な支援内容の検討・確認を実施している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		活動プログラムの立案は、全職員ミーティングにて意見聴取を行い、個々人にあったプログラム内容になるよう、検討・確認後、決定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		全職員ミーティングにて、各自の意見を取り入れ、支援内容が固定化・マンネリ化しないように気を付けながら、また保護者や児童の希望も時には取り入れながら策定している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		随時、全職員ミーティングにて、各児童一人ひとりの状況・特性を把握できるよう、職員各自が心掛ける事を徹底している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝のミーティングの時間に、職員間で前日の申し送り（口頭・メモ等）を行い、その日の支援内容や役割等の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		支援終了後は、児童の活動記録の入力を最優先に行いながら、職員間でミーティングを行い、支援の振り返りを行っている。当日に振り返りができない時は、翌朝の申し送りにて気づいた点等を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		日々の記録は、支援終了後、必ず児童一人別の「活動支援記録」を入力することを最優先に行うことを徹底しながら、記録を元に、職員同士の情報共有もしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		定期的なモニタリングの日時・内容は職員間で共有し、「放課後等デイサービス計画」の内容の見直しの必要性等を職員全員で判断・検討している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		事前に全職員で該当児童の状況についてミーティングを行い、情報共有した後、児発管または管理者または担当職員が会議に出席し、人員に余裕があれば、該当児童に精通した職員も参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			今後、地域の保健・医療・障害福祉・保育・教育等の各関係機関との連携を積極的に図っていく方針で、職員間の意識統一を図った。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		対象児童の発達に合わせて、相談員とも相談しながら、併行利用を勧めたり、小学校への移行に向けて、デイでの現状の支援内容・状況資料により情報共有し、相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		児童発達支援から放課後等デイサービスへの利用移行に伴う初回担当者会議の際に、支援内容等の資料を作成し、出席者間で情報共有と相互理解を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	---		---	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	---		---	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	---		---	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		活動の中で児童発達支援センターへ出向く際に、情報交換を行うことがある。	今後、様々な機関と連携を図り、研修等を受ける機会を設けていく。また、定期的な連携を図ることを検討していきたいと思っている。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8		地域の児童館へ行き、体育室や図書室を利用している。	今後は、幼稚園等との交流の機会も企画していきたいと考えている。	

保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時や、保護者の事業所お迎え時に、時間を取り、当日の子どもの活動状況や様子などを出来るだけ具体的に話す機会を設け、共通理解を得て、家庭との連携を密にしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8	送迎時等に、家庭での様子を聴取したり、必要時には、保護者への助言等も個々では随時行っている。	「ペアトレプログラム」については、まだ実施できていないが、保護者支援の観点から、ペアトレも含めて、今後、「親支援プログラム」(例えば家族等の参加出来る勉強会や情報交換会等)を企画し、保護者の困り事や新しい情報の交換・共有を実施出来る様に検討していく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		利用契約時に、必ず書面・口頭での説明を丁寧に行なっている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		事業所の見学時や体験時、また利用契約後の担当者会議等において、特に時間を取って、保護者や児童の意思を確認・尊重し、児童の希望(最善の利益優先考慮の観点)を取り入れる機会としている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		送迎時や保護者の事業所お迎え時に、時間を取って、策定した「放課後等デイサービス計画」の書面を提示しながら、支援内容の説明・確認後、同意を得てから署名(サイン)・押印等頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		保護者からの相談等には、随時対応しており、時には専門家の意見を参考にしながら伝えている。	今後は、さらに必要な助言が適切に出来るよう、職員間での研修強化も検討中である。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		父母の会等の「保護者会」はまだないが、年に2度、児童・保護者が集う「交流会」を行い、顔を合わせる機会を設けている。	今後、「保護者会」や「きょうだい交流会」に関して、保護者同士の連携の支援やきょうだい同士の交流の機会確保について、保護者の意見も取り入れながら、実施の方向で開催を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情や意見に対しては、適切な対応を心掛けている。	今後、対応体制の整備について、児童や保護者へ周知し、苦情・意見があった場合は迅速・適切に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月1回「しあわせ駅だより」を発行して、各月の児童たちの活動概要・利用状況や行事予定・児童の作品等の紹介を行っている。また、連絡体制については、その都度LINEにて保護者に伝えている。また、現在インスタグラムを活用して、児童たちの活発な動きやいろいろな作品等の紹介等も発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報の記載されているものについては、シュレッダー等を活用し、書類の廃棄を徹底している。また、保存書類については、鍵のかかる専用キャビネットを活用し、窓から背表紙が見えないよう保護シートを貼り、必ず施錠して帰宅するよう、職員間での管理を徹底している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		ミニ文書やLINEにて連絡している。また、手話やジェスチャー、絵カード等を活用して、意思疎通と情報伝達の確実さを配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		事業所のイベント時に、地域住民の行事の招待は行っていないが、現在は「地域クリーン活動」を行い、地域の人々と交流している。また、イベント時に、地域のお店に協力してもらい、児童との交流を図る機会を設けている。	今後は、地域の方々を招待できるよう、職員間で情報交換・共有しながら、行事の企画・検討していこうと考えている。また、自治会を通しての交流も検討中である。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		各マニュアルは職員に周知し、資料も保管し、随時閲覧可能としている。また、職員・児童で、訓練等も定期的の実施している。	今後、保護者への周知徹底方法の改善策を検討していく。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		火災・地震等非常災害の避難・救出等の訓練も、定期的に行っている。	

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		児童の利用契約時に、保護者に児童の情報を記入してもらい、「与薬対応についての確認書」の説明を行っている。また、実際に与薬の状況が発生した時には、改めて「与薬依頼書」等の説明を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		利用契約時に、児童の健康情報聴取書類にて確認後、医師の診断書等の提出・提示等で確認を行い、その指示に基づいた対応・支援を行っている。また、医師の指示書の提示が無い場合は、保護者の指示で対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分な中で支援が行われているか。	8		本社主導にて、年度ごとに「安全計画」を策定し、「安全管理マニュアル」を策定。それに基づき、各事業所にて毎月「設備・車両点検」を実施している。また安全計画に基づく研修・訓練を実施し、全職員に周知徹底するとともに、常に「安全管理」についての意識づけ・声掛けを行い、安全管理が十分な事業所で支援を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		現在「安全管理マニュアル」に基づいて、必要時には、随時保護者等に口頭にて伝えているが、文書等にての周知はまだ行っていない。	今後、児童の安全確保に関して、家族との連携を強化するために、より詳細な「安全計画に基づく取組み内容」を保護者に文書等にて周知徹底していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		「ヒヤリハット事例集」（ファイル式）を常設し、職員間で共有しており、いつでも閲覧できるようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		毎年本社主導でテーマを決めて、「虐待防止に関する研修」を計画し、各事業所において全職員参加で実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		現在、対象児童はいないが、身体拘束に関する注意事項等のマニュアル化を実施。また、本社主導での「身体拘束に関する研修」も職員全員受講しており、必要時には対応できるよう周知徹底している。	今後、身体拘束を必要とする児童が利用する場合は、作成したマニュアルを元に、実施・対応する事を、随時全職員に周知徹底していく。

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名 しあわせ駅 松本

公表日 令和 8 年 3 月 30 日

利用児童数

回収数 5名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	4			1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4			1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	1				
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4		1			
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4		1			
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	5					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5					
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4		1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5				
	29	事業所の支援に満足していますか。	5				